

# 財団法人日本バレーボール協会 第 201 回理事会 議事録

**日 時**：平成 21 年 2 月 27 日(金) 16：10～16：30

**会 場**：日本青年館 3 階（東京・新宿区）

**出席者**：立木会長、橋爪副会長、中野・丸山・萩原・成田・下山・不老・岩満・竹内・三屋・岩井・中島・森田・西川・残間各理事

**【委 任】** 倉橋・ゼッターランド・小場各理事

**【監 事】** 岡崎・高橋・大久保各監事

**欠席者**：山岸・山本・清水各理事

**陪席者**：小島・五十嵐・平澤・天野(事務局)

理事現在数 22 名、うち出席 16 名、委任 3 名で寄附行為第 28 条に基づき理事会が成立。議事録署名人に下山隆志理事、森田淳悟理事を指名。16 時 10 分、立木会長を議長に議事に入る。

## <審議事項>

### 1. 平成 21 年度基本方針および事業計画について

(立木会長) 説明。

平成 20 年度第 5 回執行役員会で業務推進事業本部、M&M 事業本部、強化事業本部、国際事業本部、国内事業本部の 5 事業本部から平成 21 年度事業計画の説明があり、執行役員会の同意を得た。事業計画及び収支予算に関する事項は、理事会で議決する前に評議員会の意見を聞くことが寄附行為で定められている。平成 21 年度事業計画について第 73 回全国評議員会で以下の内容を諮問し、評議員会の了解を得たので、本日の理事会で正式に議決したい。

- ① 男女チーム“ジャパン”(インドアー、ビーチ)のメダル獲得に全日本シニアチームだけでなくジュニア、ユース等、一貫したバレーボール界全体のレベル向上を図る。
- ② 情報化推進事業の推進  
JVA 公式サイト(PC サイト及びモバイルサイト)による情報サービスの充実を図る。  
JVA メンバー制度システム(MRS)の充実を図る。
- ③ FIVB ワールドグランドチャンピオンズカップをはじめ、FIVB 公式大会開催に当たり、関係各機関と協力し、運営に万全を期し、競技会収入の

増収を図る。

- ④ JVA 主催の国内競技会（国体、9 人制を含む）を見直し、レベル向上を図る。
- ⑤ 将来を見据えて、小学生、中学生レベルの競技会・普及活動を強力に押し進める。

以上のとおり資料に基づき趣旨説明があり、理事会は平成 21 年度事業計画について諮り、異議なく承認可決。

## 2. 平成 21 年度収支予算について

（立木会長）説明。

平成 20 年度第 5 回執行役員会で収入・支出ともに 23 億 7,378 万円の平成 21 年度収支予算を提案し、執行役員会の同意を得た。事業計画及び収支予算に関する事項は理事会で議決する前に評議員会の意見を聞くことが寄附行為で定められている。平成 21 年度収支予算について第 73 回全国評議員会で以下の内容を諮問し、評議員会の了解を得たので、本日の理事会で正式に議決したい。

平成 21 年度予算編成については経理規程に則り平成 20 年度と同様の方法で進め、①収入見込み算出②各本部に概算配分額提示③概算配分を各本部で調整④本予算策定の順で予算編成を行った。

まず収入見込だが、事業収入として 19 億 6,681 万円を計上した。内訳は協賛金 7 億 1,065 万円、入場料収入 5 億 6,354 万円、FIVB 大会の運営業務受託料 1 億 8,958 万円が主なものである。事業収入のほかに JVA メンバー制度会費 1 億 9,854 万円、補助金助成金、交付金収入が 1 億 9,900 万円、その他諸々の収入を合計すると 23 億 7,378 万円が収入見込みとなる。入場料収入、業務受託料の減は、前年のオリンピック世界最終予選と平成 21 年度のワールドグランドチャンピオンズカップとの大会開催日等、大会規模の違いによるものだ。

次に支出では、強化事業費が前年度より 4,000 万円減の 5 億 4,364 万円。前年は北京オリンピック特別対策費として 4,000 万円を計上したので、その部分の減であり、予算としては前年同様の金額を確保した。

国内事業費では 6 億 2,524 万円とその内訳は資料に示したとおりである。

興行権を購入する V リーグの大会開催日が前年より多く、そのため開催経費増となるが、国内競技会開催経費減などもあり、前年との比較は 141 万円ほどの増になる。

国際事業関係は 6 億 3,136 万円、9,267 万円の減は前述した大会規模による減少が主なものである。

M&M 事業では 9,165 万円増の 1 億 9,550 万円を計上した。増加部分は V

リーグ機構からマーケティング権を購入する費用である。ここで購入した権利を JVA が所有する権利と一括して売却するためだが、いってみればそのための仕入れ費用である。

協会の基礎的な運営経費となる業務推進関係では、498 万円増の 2 億 5,114 万円を計上した。メンバー制度費用は導入 3 年目となり、ソフト開発費が前年より大幅に減少する。

これらに 2010 世界バレー、2012 ロンドンオリンピックに向けた積立金、諸税の支出を合わせると 23 億 7,378 万円となり収支が均衡することになる。

予算規模の 23 億 6,878 万円は前年度に比べ金額で 3,382 万円減、率にして 1.4%減となる。

以上のおり趣旨説明があり、理事会は平成 21 年度収支予算について諮り、異議なく承認可決。

### 3. 平成 21・22 年度執行役員の選任について

(立木会長) 説明。

執行役員会規程第 3 条に「執行役員は理事会において選任する」と定められている。

平成 21・22 年度の執行役員については、現理事会で執行役員選考委員会委員を人選し、3 月中旬までに新理事連絡会議を開催。新理事により新執行役員を選任することとする。

執行役員選考委員会委員は以下の 5 名を任命したい。

立木正夫会長

中野泰三郎副会長

萩原秀雄理事

山根武次期理事

梅野實次期理事

以上のおり趣旨説明があり、理事会は平成 21・22 年度執行役員の選任について諮り、異議なく承認可決。

以上で全議事を終了、16 時 30 分閉会。